ピンクのドラゴン

人形劇団プーク
La Pupa Klubo

原作／ルーメン・ニコロフ
訳／中井 郁
潤色／安尾芳明
演出プラン／野田史図希
演出／柴崎喜彦
美術／坂上浩士
音楽／富貴晴美
照明／根橋生江
音響効果／吉川安志
衣装デザイン／坂下和歌子

やんちゃな女の子ハッチは、ドラゴンがだいすき！いつも絵本でパパからドラゴンのお話を読んでもらいます。

そんなハッチの、今日は6回目の誕生パーティ。でもパパの帰りは遅いし、お客様はまだやってきません。待ちくたびれたハッチは、いつしか夢の中へ…。

目を覚ましたハッチが出会ったのは、小さなピンクのドラゴンでした。とっても恥ずかしがりやで、火もはけない弱虫なドラゴンです。

ハッチとピンクのドラゴン、そしてパパドラゴンがおりなすワクワク楽しくてちょっぴり切ない物語です。

「想像の世界を楽しんで」　演出 柴崎喜彦

この物語は、20年以上前にブルガリアで生まれました。

ヨーロッパの古い建物の床下には、現代の設備とともに、過去の気配が静かに息づいています。その奥に、ふと異世界が広がっていても不思議ではありません。日本にもまた、洞窟や井戸、神社、森など、日常と異世界が交わる場所があります。私たちのすぐそばに、想像の扉はひらかれているのです。

現代の子どもたちは、スマートフォンやタブレットが身近にあり、動画を通して多くのことを学び、遊びを知ります。豊富な情報をもとに、直感的・視覚的に理解し、瞬時に処理したり組み合わせたりする力に長けています。

しかしその一方で、何もないところから想像をふくらませ、じっくりと世界を思い描く時間は、少し減っているのかもしれません。だからこそ、自分の内側から広がる想像力が、いま大切なのだと感じています。

主人公ハッチは、空想を楽しみながら自分の世界を広げていきます。その姿は、私たちに想像することの豊かさを思い出させてくれるでしょう。子育てにも想像にも、決まった正解はありません。この作品が、人形劇ならではの力で、親子の心をやさしく結ぶ時間となれば幸いです。どうぞ、それぞれの想像の世界を楽しみながらご覧ください。

人形劇団プーク
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-12-3　☎ 03-3370-3371 FAX03-3370-5120
puppet@puk.jp　https://www.puk.jp/　@pukichichibi